

## 事業実績（研修）報告

### 1. 研修の概要

- (1) 目的 「地方交付税」から学ぶ地方財政講座
- (2) 日時 令和2年1月30日（木）10時～16時
- (3) 場所 NHK 名古屋市放送センタービル B2F
- (4) 参加者 大塚久美子議員



(講義前、講師写真)

### 2. 研修内容と所感

講師 稲沢克祐 博士（経済学）  
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授

講義項目

- 1. 自治体の環境変化と予算審議
  - (1) 地方自治体の環境変化
  - (2) 公共施設等の老朽化・余剰化の現状
  - (3) 予算と決算
- 2. 地方自治体の財政自主権と歳入・歳出の概要
  - (1) 財源の比重
  - (2) 歳出の特徴
  - (3) 財源の種類
  - (4) 財政自主権から見た財源の性質
- 3. 地方税制度－歳入の太宗
  - (1) 地方税体系
  - (2) 課税自主権の考え方と法定外税
  - (3) 法定外税の現状：地方財政計画外の収入
  - (4) 地方税債権
- 4. 国と地方の事務、財政調整制度  
(財源保障・財源調整)の必要性
  - (1) 国と自治体の事務配分と財源
  - (2) 自治体の多様性、地方税源の偏在
- 5. 地方交付税制度の概要
  - (1) 財政調整制度と地方交付税

- (2) 地方交付税とは
- (3) 地方財政計画の意義
- (4) 地方財政計画のポイント
- (5) 地方交付税の配分方法
- (6) 基準財政需要額(どうやって必要経費を見積もるか)
- (7) 基準財政収入額(どうやって収入を見積もるか)

#### 6. 国庫補助負担金制度と地方交付税

- (1) 国庫補助負担金制度と財源保障
- (2) 国庫補助負担金制度の概要
- (3) 国庫補助負担金の算定と問題点

#### 7. 自治体の事務と財源保障

- (1) 自治体の事務と財源保障の規定
- (2) 行政水準の考え方

#### 8. 地方債制度

- (1) 地方債制度の意義
- (2) 地方債の対象経費
- (3) 地方債制度に係る国の関与
- (4) 地方債協議制度
- (5) 地方債の信用維持の仕組み
- (6) 地方債計画
- (7) 地方債同意基準

#### 9. 地方財政制度と自治体の財政規律

- (1) 建設公債主義
- (2) 出納整理期間
- (3) 自治体財政健全化法における収支不足

#### 10. その他の自治体財源の理解

- (1) 使用料(受益者負担)
- (2) 財産収入:行政財産の貸付
- (3) 諸収入(広告・ネーミングライツ)

#### 11. 歳出予算審議のポイント

- (1) 歳出予算審議のポイント 10
- (2) 性質別経費から見た予算審議のポイント

#### **予算審議ポイント**

- (1) 平成 31 年度予算(補正後)と令和 2 年度予算案との歳出規模・伸び率を比較する。
- (2) さらに、目的別(総務費、民生費、教育費、土木費…)に、前年度伸び率を比較  
⇒(1)、(2)を通じて、令和 2 年度予算案の枝ぶりを見る。
- (3) 首長のマニフェストと予算案との関係を確認する。何が実行されようとしているか。
- (4) さまざまな「計画」と予算案との関係を確認する。高齢者福祉計画、行政改革推進計画…。計画は作ったが、実行はどうなっているのか。

- (5) 歳出予算を事業別に見てみる。特に、人件費の計上は、各事業の予算案には計上されていないため、どの程度の「人手」が必要な事業なのかを確認する。
- (6) 事業別予算になっていない自治体では、是非、重要な事業だけでも、各部・各課に分散計上されているようであれば、それを集計した資料を要求して全体像を把握する。  
⇒(5)、(6)は、行政評価を導入している自治体であれば、行政評価シートと見比べながらの審議ができるので、是非とも活用する。
- (7) 事業別予算を採用していても、政策課題として重要性の高い事業・施策については、各部・各課に散らばって要求されていることがあるので、「高齢者福祉対策関係予算」などのようにして全体像を把握すること。
- (8) 大規模予算ほど、審議が簡単になっていないか。特に、「長期画に則って実行しているような整備事業は、金額が大きい割には、時間が掛けられていない傾向にある。  
評価の視点から見て、本当にそれでよいのか。
- (9) 「調査」、「基本構想」などの名称は、施策の実行段階で将来の負担が大きくなる可能性があるにもかかわらず、当該名称での予算額は小さいので、よく注意して、将来負担についても審議する。
- (10) 委託料、補助金、負担金については、積算についても確認する。

## 所感

稲沢教授の講義は、財政用語からどんな予算審議をしていくことがよいか、かみ砕いてわかりやすく話された。とかく、予算審議になると事業の詳細や目標に終始しがちではあるが、講義を受けたことで理解が進み予算審議に活かせると考える。

計画の達成度を常に確認して行政が目標をどのように設定してその事業に臨むか、確認する必要がある。予算では、全体の木を見て、枝を見て、葉を見る。と言われた。細かい数字に目が行って、予算の全体像を見ないことが多いが次回からはまず全体の木を見て審議したい。

その予算の要求はなぜ当初予算なのか。なぜ今なのか。予算書に隠れている事実を見極めていきたい。3月定例会本会議文教委員会予算審議において今回講義を受けた内容を照らし合わせ、市民の付託に応えていきたいものである。

## 収支報告

項目	支出金額	備考
研修費	24,730円	参加料 22,000円 旅費 2,730円
計	24,730円	